

ハーブアンサンブル部

35年指導を続ける岡島先生と ともにさらなる活躍を



岡島多恵子先生

今年で設立35周年を迎える中学校・高校のハーブアンサンブル部。その記念演奏会が3月22日に栄光館で開催されました。今回演奏された曲目は「スケーターズワルツ」「グリーンスリーブス」など中学生、高校生各学年あわせて全13曲。演奏の間には中学2年生、高校1年生の劇も行われ、美しく流麗なハーブの音色に会場からは惜しみない拍手が送られました。

現在、ハーブアンサンブル部に所属する生徒は中学生30人、高校生21人。週1回の合同練習以外は、各自で自主練習を行っています。その合同



練習で指揮をとるのは岡島多恵子先生です。岡島先生は創立以来35年間、ハーブアンサンブル部を指導。「学院にハンドベルクワイアを作ったケリー先生に『生徒たちの情操教育のひとつとして、ハーブという宝の種をぜひ育ててほしい』とお願いされ、そのお心に共鳴し、今日まで指導を続けています」。35年の間には、さまざまな苦労も。「指導をやめようかと思ったことも幾度かありました。その

ハイチ大地震の支援募金を 高校、中学校各生徒会が実施

今年1月に発生したハイチ大地震は多くの犠牲者を出し、甚大な被害をもたらしました。これを受け、高校と中学校の各生徒会が「ハイチ大地震支援募金活動」を実施。それぞれに一生懸命活動を行いました。

高校では2月15日～19日に行われました。朝夕は下足室前、昼は食堂前で募金活動。「朝は寒かったけど、友達や先生から頑張ってるね、お疲れ様と声をかけられてうれしかった」「金額に関係なく、みんなの優しい心が伝わっ

てきた」と生徒会の皆さん。他にも放送部において募金を呼びかけたり、「小さなチョコ1個分のお金でコップ1杯のお粥が買える」と書かれたプリントを全校生徒に配ったりと生徒たち自身ができることを考え、実行してきました。その結果、21万9646円もの募金を達成できました。

中学校でも大地震発生直後に執行



左から／西崎莉乃さん、横尾みやびさん、社本珠江さん、長屋琴子さん



左から／稲葉遥さん、柘植美結さん、甲斐夢乃さん

創立35周年記念演奏会

たびに学校のご理解や先生方のご協力、そしてケリー先生のお言葉と生徒たちに支えられてきました」と岡島先生。「大きな演奏会が終わっても気を抜くことなく練習に励む生徒たちの姿に励まされます」。生徒たちも「美しいハーブの音色で、いろいろな曲が演奏できるのが楽しい」と、仲間とともに演奏する喜びを実感。毎日一生懸命自主練習に取り組み、部員全員が一丸となって頑張っています。「今後も36、37年と記念演奏会がずっと続けられるように頑張りたいですね」と話す岡島先生。そしてハーブアンサンブル部のさらなる活躍を期待いたします。



部を中心に募金活動を計画。1月25日～27日に行いました。活動中は生徒会執行部が朝、昼、夕方と購買の前に立ち、募金を呼びかけました。「はじめは呼びかける声が小さかったけれど、そのうちに慣れてきて大きな声で呼びかけられるようになりました」と生徒会役員の稲葉さん。家から持ち寄ったお金や、呼びかけに応じて購買部で購入した代金のおつりなどが募金箱に入れられました。また自分が飲もうとしていたジュースの購入をやめて募金をした生徒もいました。こうして集まった募金は総額11万1367円。高校、中学校ともに募金は国際飢餓対策機構愛知事務所へ届け、感謝状をいただきました。

今後も高校生徒会は「ペットボトルのキャップを集めてワクチンに」、中学校生徒会は「書き損じはがきを集めてフィリピンの教育環境を整える」と、それぞれの活動を継続していきます。

2009年度卒業生の進路状況

～金城学院大学へは207名が進学・

外部受験では京都大(文)名市大(薬)への現役合格者も～

年々多様になってきた高校生の進路希望に合わせ、本校では2年次からコース制をとり、生徒が自分の適正や目的にあった進路を早めに選択し、その準備をするよう指導をしています。

今年度の金城学院大学への進学者数は、内部推薦者180名に一般推薦・受験での進学者27名を加えて、207名(卒業生全体の58.8%)と例年より少し増加しました。なかでも人気の高い英語英米文化学科は今年も推薦枠を超える希望が出されました。

外部受験コースでは、京都大(文)・名古屋市立大(薬)・名古屋大などの有名国公立大学をはじめ、私立大でも上智大1名・東京理科大7名・青山学院大15名・立教大5名・学習院大4名・同志社大6名・同志社女子13

名・立命館大28名・南山大32名など、難関校にも多くの合格者を出すことができました。また、「関西学院大学との特別な協定校推薦制度」を利用し、今年度も6名の生徒が推薦され、関西学院大学の各学部へ進学をしています。

卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。

2009年度卒業生の進路状況

(進学者実数)

国公立大	7	専修・各種学校	1
私立大	103	就職	0
金城学院大	207	進学準備	32
国公立短期大	0	その他(留学)	2
私立短期大	0	卒業生総数	352

薬学部が「ホワイトコートセレモニー」を開催

薬学部の新5年生が実務実習に向けて白衣を手渡される「ホワイトコートセレモニー」が行われました。実務実習に出るために所定のカリキュラムと難関試験に見事合格を果たした学生148名が白衣を授受、これから始まる実務実習に向けて誓いの言葉を述べました。

薬学部が6年制薬学教育となって最初の「ホワイトコートセレモニー」が5月8日にランドルフ記念講堂で行われました。これは薬剤師になるために必要な実務実習に向けて「白衣」を受け取る式典で、2008年2月、4年制薬学部第1期生に実施して以来2度目となります。

当日は新5年生148名と指導教員、職員をはじめ来賓やご父母の皆さ



まのご出席を得て会場全体で讃美歌を斉唱した後、金承哲薬学部宗教主事が聖書を朗読し、厳かな雰囲気に含まれました。その後、認証授与へ。認証された新5年生一人ひとりが名前を呼ばれて起立する姿に、晴れ晴れしさと緊張感が感じられました。代表が認証状を受け取った後「白衣着用」の声とともに全員が一斉に真っ白な白衣を着用。学生を代表して熊澤綾乃さんが「新しい白衣を身につけ、薬学部生としての自覚と誇りを強く感じます。6年制教育の第1期生として薬の正しい技術を身につけ、どんな時でも強く、人をいたわる優しさを忘れず頑張ります」と誓いの言葉をしっかりと述べました。

式辞では森雅美薬学部長が「実務実習では広い知識と高

い技術が求められます。現場では謙虚な気持ちで多くの事を学び、また積極的に取り組んで今後の学習に役立ててください。成長した皆さんに会えるのを楽しみにしています」との言葉を贈られました。祝辞では二杉孝司副学長が「薬剤師の新しい実習に参加できる皆さんを大学としても誇りに思います。実り多い実習になるように頑張ってください」と、また水谷勝彦薬学部協力会会長が「大学のスローガン『強く、優しく』を実務実習でも実践し、深い専門性と豊かな心を身につけてください」と挨拶。

最後は後輩たちからシャクヤクの花を受け取り、拍手の渦の中を退場。これから始まる22週間もの長い実務実習で多くのことを学び、将来、医療チームの一員になれる力を身につけていきます。

心理学科から多元心理学科へ ユニット制導入により将来への学びがより明確に

金城学院大学人間科学部心理学科は、これまで社会心理学専攻と臨床心理学専攻に分かれていましたが、2011年度から「多元心理学科」と名称も新たに、中身も一新いたします。

変更の大きなポイントは、まず専攻をなくし、学科展開科目を社会心理学ユニット、健康心理学ユニット、キャリア心理学ユニット、臨床心理学ユニット、発達教育心理学ユニット、医療福

祉心理学ユニットの6つにまとめ、学生はメインユニットと2つのサブユニットを選択し、ユニットごとに履修することになります。

心理学の学びを社会で活かせる人材を育成しようとした場合、ひとつの心理学領域ではなく複数の領域の学びが必要となります。しかし学生にとっては、科目ごとの履修では自分の目指す方向に合わせてアレンジする

ことはかなり困難です。ユニット制はそのアレンジがわかりやすくなることで、将来のビジョンを見据えて学ぶことができるようになります。

心理学科のスタッフの専門性を、より複層的に学生に提供し、このユニット制を効果的に運用できるよう、現在準備を進めています。

保育のカリキュラムにハンドベル 一緒に演奏する喜びを園児たちに

幼稚園では今年から、保育のカリキュラムのひとつとしてハンドベルが加わりました。これまでは金城学院創立120周年に向けて、課外活動の一環として年長児の希望者によるハンドベル演奏は行われてきましたが、保育のカリキュラムとして行われるのは今回が初めてです。「中学校や高校、大学にはハンドベルクワイアがありますが幼稚園には今までありませんでした。小さい子どもたちにハンドベルの楽しさを伝えたいというのは、園全体の願いでもありました」と加藤千夏先生。「金城学院はケリー先生によって日本で最初にハンドベルクワイアが誕生した学校です。その伝統を踏まえて今回、幼稚園でもハンドベルを取り入れることで、さらに学院全体がひとつにつながったと思います。また年少、年中児にとって大切なのは見て学ぶことです。年長児が演奏する姿を見て、自分もやってみたくてくれればうれしいですね」との思いも話されました。

初めてのハンドベル保育は5月12日に行われました。指導されたのは大森愛先生。興味をもった年長児16人が集まり、大森先生の話聞きながらみんな真剣な表情でハンドベルを鳴らしました。園児たちはみんな、初めて触れるハンドベルに興味津々。「きれいな音!」「今度、大きなベルを鳴ら



左から／大森愛先生、加藤千夏先生

してみたい」など賑やかに楽しくハンドベルを鳴らしました。最後にはみんな「かえるの歌」を見事に演奏し、見学していた年少児や年中児からも拍手が起きました。

「小さい頃から本物の楽器に触れることはとても大切です。生の音に触れることで感性が養われます」と大森先生。ハンドベルは1人では演奏できない楽器なので、みんなで協力することの大切さを学べると話されます。「一人ひとりの存在の大切さ、お友達の大切さをハンドベルを通して伝えていきたいと思っています。またハンドベルは神を讃美する楽器です。いつも神様に感謝する気持ちを忘れないでほしいとい

うことも話しながら、楽しくハンドベルにふれあってほしいと思っています」とも。今後、ハンドベルの保育は年に10回行われる予定です。「ゆくゆくはタンブリンやトーンチャイムなどの他の楽器との合奏もできるようになればいいですね」と先生方の期待も高まります。また課外活動としての年長児や小学生のハンドベル活動も今後続いていきます。

